

2012年度 ピースアクションinヒロシマ 報告

日程：8月5日（日）、6日（月）

参加：東京南部生協 2名、東京ほくと医療生協 7名

全労済東京都本部 7名、事務局 佐藤、川延 計 18名

被爆者との交流会のみ参加：

パルシステム東京 10名 東京保健生協 20名



今年度のピースアクションinヒロシマは移動を含めての参加団体は3団体18名、被爆者との交流会は5団体48名の参加となりました。参加団体、人数ともに昨年より減りましたが、小学生も3名参加し今年も幅広い年齢層の参加となりました。

今回は昼食をバス内で摂ったことで「虹のひろば」へは遅れることなく参加できました。《虹のステージ》は広島山陽高校和太鼓部の演奏によるオープニングで幕開けし、広島市長挨拶、広島県原爆被害者団体協議会理事長の坪井直さんの被爆の証言をお聞きしました。全国の生協、諸団体が出展した《みんなのひろば》では各生協・団体の展示や呼びかけ、紙芝居や原爆展パネルなどを見学できました。2020ビジョン、震災復興を考える、「つながろう」プロジェクトの各コーナーなどは生協の取り組みを知り、全国の生協がともに在ることを感じさせてくれるものでした。

その夜は5団体揃って「被爆者の皆さんとの交流会」を開催し、お子さんのいるグループ、大人だけのグループの2部屋に分かれて5人の被爆者の方からお話を伺いました。

2日目は平和祈念式典から広島空港集合まで各生協ごとにフィールドワークなど、工夫を凝らして過ごしました。日本生協連のプログラムに参加した生協もありました。



山陽太鼓・弾

◇・◇ 虹のひろば ◇・◇

広島山陽高校和太鼓部の山陽太鼓`弾`の力強く勇壮な響きで《虹のステージ》オープン。日本生協連の芳賀専務の主催者挨拶の後、松井一寛広島市長から、今こそ、被爆者の体験や平和の思いをしっかりと学び、この世界に生きる一人ひとりに伝えたい。2020年までの核兵器廃絶を目指して平和市長会議の輪を広げることに力を注ぎたい。そして広島の決意を新たに、それが世界に広がりやがて核兵器のない世の中になっていけるようにとのメッセージがありました。

被爆者の坪井直さんは、多くの被爆者の中の一人の話として聞いてほしいとして、あの日の体験を語ってくれました。あの日の記憶は忘れられず、助けられなかった

人の事をいつまでも憶えている。あの日死んでいった人の思いも背負って今まで生きてきた、人の命が一番大事、人間の尊厳を傷つける戦争は絶対に許さない、私はあきらめない、と。伝えていこうという使命感が、ご自身の体調も支えているように感じられました。



坪井直さん



400枚以上のTシャツをつなぎ合わせて作った横断幕を使った「つながろう」プロジェクトの作品。多くの人の平和への思いが繋がっています。

《みんなのひろば》は全国の生協・団体の出展ブース、折り鶴コーナー、被災地からの支援呼びかけ等多彩な催しが行われ、思い思いの交流ができました。

フィナーレは恒例の「そうれっしやがやってきた」の合唱。幼稚園児から大人まで、さまざまな団体が心を合わせての歌声は、あの頃の子もたちの願いを今に運んでくれました。集ったみんなの平和への思いがその願いに呼応して会場に広がるようでした。



◇・◇ 被爆者の皆さんとの交流・参加者からの感想 ◇・◇

2グループに分かれてお話を伺いました。みなさん健康への不安を口にされながらも、語り継いでいこうという思いが伝わって来ました。話しながらあの日にかえって涙ぐんでしまわれる姿に、つらい記憶を聞く私たちも伝える使命を受け継いだのだと感じました。参加者からは、つらい体験を話して下さることへの感謝の言葉がたくさん届きました。

被爆者の方お一人お一人に歴史があるのだと感じました。どの方も平和を願い、戦争はあってはいけないと言います。この歴史を無駄にしないでいくことが戦後生まれの私ができることなのかと思いました。



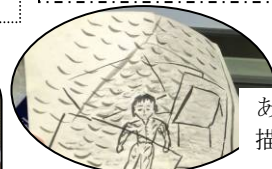
植松由紀子さん、綿崎直子さんを囲んで。

綿崎直子さんが最後に一人ひとりが思いやりを持ち、戦争も核もない平和な世界を作りましょうと言われたことが一番心に残りました。

被爆体験を涙しながら語る方、明るく話す方、力強く言われる方とさまざまでしたが、皆つらい体験を風化させない様、世界平和、核のない世界という共通の思いを感じることができました。現代の私たちには何ができるのだろうと考えさせられる交流でした。



丸屋博さん、湊アサエさん
野崎スズ子さんを囲んで。



あの日を描いた絵

つらい思いをしながら8.6当時のことを語ることは大変であり、私たちに対して「しっかり若い世代に伝えてください」というメッセージを受け取りました。多くの他の人々へ伝え、さらに運動を広げなければと思いました



被災され、身边も、ご自身も厳しい人生を過ごしてこられたのにお元気なご様子は嬉しいです。

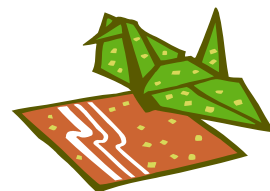
被災時の驚き、原爆というものが全く判らない中でさまざまな厳しい体験をされた方々。その内容を今後の平和のために語っていただけたことに感謝です。

お話を伺いとても心が痛みました。被爆者の方は何十年前に体験したにも関わらず、まるで昨日のこの様にお話されていました。

今回をきっかけに、風化されつつある歴史を後世に継承していける様に努め、平和の大切さを伝えていける人間になりたいと思いました。

◇ 虹のひろばに参加しての感想より ◇

- 核・原子力に対して各地域の生協が様々な取り組みをしていることを実感できました。改めて戦争・核のない世界の実現に向けて皆で力を合わせて取り組んでいく必要があると考えさせられるプログラムでした。
- 和太鼓の迫力がすばらしく圧倒されました。展示物で、核兵器をペットボトルを使って目でわかる工夫をした展示に感心しました。子どもにも大人にも関心が持てるようすばらしかったです。
- 平和に対する様々な取り組みなど、核のない平和のためにはどうすればよいかを考えることができ、被爆者の体験などを聞いて良かったです。オープニングの高校生の和太鼓や、フィナーレの子どもたちによる元気な歌声は広島生き生きとした力が感じられました。
- 坪井さんのお話を聞いて、自分の知っている原爆の日のことは本当に一部のことであったことを実感しました。



◇ピースアクション inヒロシマに参加しての感想より ◇

- 2日目の式典では子ども2名の代表者が発言する場面が印象的でした。やはりテレビ鑑賞するのとは全く違いその場の雰囲気を感じることが貴重な体験だと思いました。
- 参加してよかったと心から思います。今回見たこと、感じたこと、学んだことを持ち帰って、今後の活動の上での原動力にし、周りに平和の輪を広げていきたいと思っています。
- 人生で初めて「平和」について考えられた時間になりました。この悲しい出来事をムダにはしないと強く思いました。



虹のひろばを終えて 5団体一緒に